

高速道路に関する震災・復旧資料の保存と震災継承

阪神高速道路(株) 正会員 ○山岸 達也、正会員 金治 英貞、西出 浩明
(財)阪神高速道路管理技術センター 正会員 松本 茂、大石 秀雄

1. 背景と目的

平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震では、多くの貴重な人命が失われ、広い地域で甚大な被害がもたらされた。阪神高速道路も3号神戸線で635mにわたって倒壊、4箇所落橋、5号湾岸線でも1箇所落橋するなどの被害を受けた。その被災・復旧経験を、国内外を問わず風化させることなく語り継ぐため、阪神高速道路公団(当時)によって、平成11年に「震災資料保管庫」が設けられた。この保管庫は、地震で被害を受けた構造物を撤去する際に、運搬、仮保管していたものを劣化しないように倉庫に搬入したもので、その貴重性から、その後、多くの研究者、技術者などに公開し、大きな評価を受けている。

しかしながら下記のような課題も残されていた。

- 被災構造物の状況、原因の説明不足
- 見学者の視点や動線への配慮不足
- 存在感の希薄さ、展示物の風化

今般、震災15年、震災資料保管庫の設置10年を機に、我々の震災経験を国内はもとより、災害の多い発展途上国など海外も含めた研究者・専門家、そして、阪神高速道路の沿道地域の方々や未来の技術者である子どもたちにもわかりやすく後世に継承するため、また、悲惨な震災を決して忘れることなく安全の原点を見つめ直す場を提供するとともに、ライフライン(命の道)を建設管理するグループとして減災に取り組む責務と姿勢をこれまで以上に広く社会に示すために、震災資料保管庫のリニューアルを図り、積極的な利用を推進するための検討を行った。

2. 対象と着眼点

リニューアルにあたっては、訪れる方が小学生から研究者・専門家まで多種多様である事を考え、対象者ごとに以下の着眼点を設けて検討を行った。

- 研究者、専門家、技術者：兵庫県南部地震のレビュー、被災メカニズム、復旧技術とその後の技術開発
- 一般の方：巨大地震の怖さ、地震対策、企業の取り組み
- 小中学生、高校生：巨大地震の怖さ、構造物のスケール感、地震対策
- マスコミ：施設存在感、地震対策、企業の取り組み
- 阪神高速グループ：被災メカニズム、技術開発、安全・安心経営の礎

これらの検討に際しては、豊富な経験や幅広い知見に基づく判断、そして、専門家でない一般人としての視点も要求されることから、幅広い方面の委員による「震災資料保管庫リニューアル検討会」を設立し、広く専

キーワード 兵庫県南部地震、震災資料保管庫、被災経験の伝承

連絡先 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 4-1-3 阪神高速道路(株)技術部 TEL 06-6252-8121



図-1 阪神高速3号神戸線の倒壊



図-2 損傷構造物の展示状況
(コンクリート橋脚のせん断破壊)

専門的な意見、助言を得ることで、今後の震災資料保管庫のあり方、ならびにリニューアルプランを検討した。なお、公的な施設の位置づけもあり、被災地における学識者、マスコミの有識者の意見も伺うことにし、より開かれた施設を目指し、さらに、地震被害だけでなく、「安全・安心」という言葉をキーワードに、橋の安全性を広く啓蒙できる施設への発展も含めて議論を行った。

3. リニューアル概要

これまでは被災構造物とその構造物の説明パネルがある『点』の展示のみであったが、地震発生メカニズムや兵庫県南部地震の概要から、震災復旧で活用された技術、工法、さらにはその後の耐震対策など『線』による展示へと移行した。

兵庫県南部地震の概要、高速道路以外の被害状況などを紹介したエントランス、地震発生～復旧、供用開始までの年表や、復興に携わった担当者の声などを紹介するプレゼンテーションルーム、地震発生のメカニズムが分かる子ども用説明パネル、震災で得た体験をもとに開発された技術、施工法、災害支援、体験継承を紹介するエンドコーナー、構造物の被災状況をより分かりやすくするために各構造物ごとの模型設置、損傷構造物を俯瞰して見ることが出来る足場の設置などを行った。

4. 震災継承

平成21年12月18日にリニューアルオープンし、神戸市内の小学生を招待し、出前講座を行った。また、震災発生から15年の平成22年1月17日には1日限定で一般公開し、約230名の来場があった。一般公開にご来場頂いたお客様からも「改めて地震エネルギーのすごさ、怖さを認識した」「もっと広く一般の方にPRして欲しい」とのご意見を頂いた。

この様なお意見を踏まえ、今後は皆様にご覧頂くために改良工事を行い、平成22年夏頃から受付を開始する予定である。

5. 最後に

地震を避けることは出来ないが、この施設によって情報の伝達と共有が行われ、今後災害が少しでも軽減されることを願っている。また、この施設を安全・安心の原点を見つめ続けるための礎にしたいと強く考えている。

謝辞

検討にあたっては、外部委員として(株)サンテレビジョンの門前善康報道制作局次長、神戸大学の鎌田泰子准教授、三木朋広准教授に貴重なご意見、ご助言を頂きました。非常にご多忙の中、ご協力頂きましたことを深く御礼申し上げます。



図-3 エンドコーナーパネル



図-4 足場から見た被災構造物
(鋼製箱桁下フランジ損傷)



図-5 震災資料保管庫一般公開の様子
(鋼製橋脚の損傷と緊急対策)